

化学でもっといいこと。



ダイソー株式会社

2012年3月期 第2四半期

# 決算説明会資料

2011年12月2日



# **I. 2012.3期2Qハイライト**

---

# **II. 2012.3期2Q業績**

---

# **III. 2012.3期業績予想**

---

# **IV. 研究開発**

---



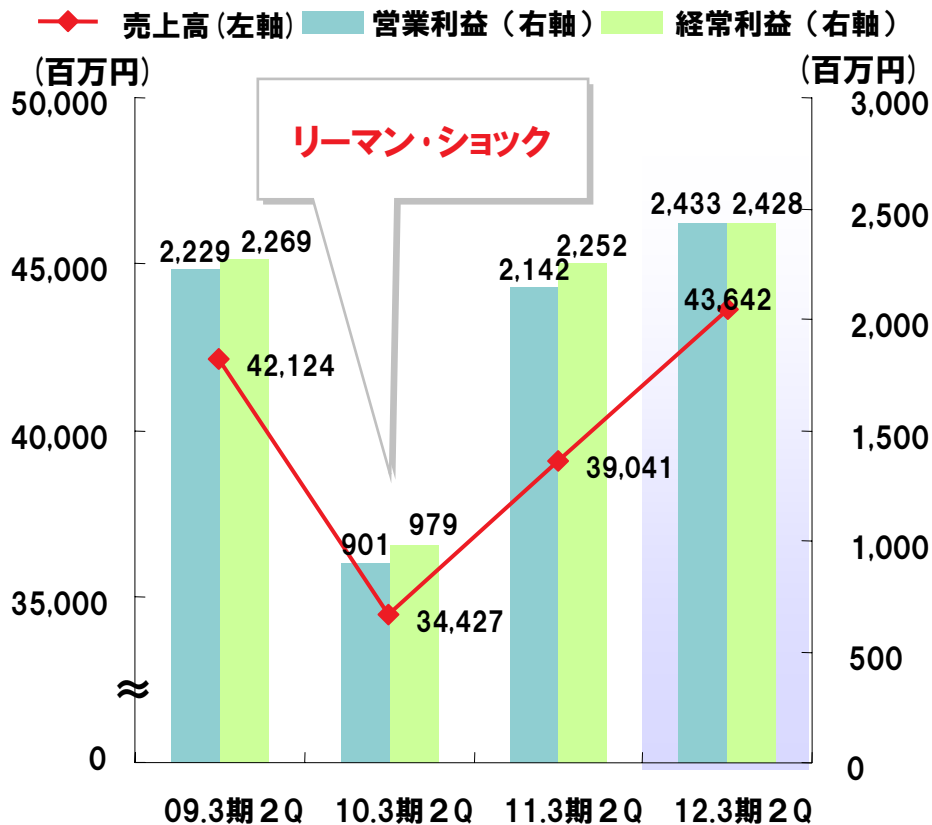
# I. 2012.3期2Qハイライト

# 2012.3期2Qの業績は過去最高を更新

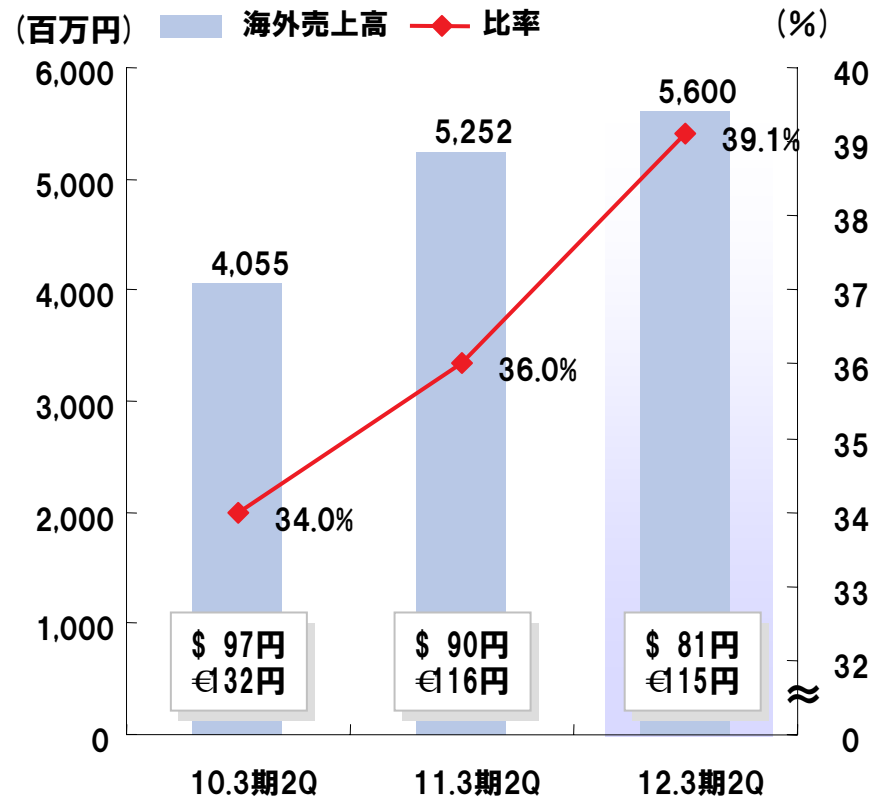
## 売上高 12%、営業利益 14%増加

基礎化学品：供給責任を優先した緊急増産およびコストダウン  
 機能化学品：海外市場を中心に高付加価値製品が増加

業績の推移



機能化学品海外売上高の推移



# 市場を作り出す取り組みが結実

## 機能化学品事業

### グローバルニッチ戦略を推進

- 世界トップシェア製品群の増設
- M&Aの推進(医薬、電極、商社部門など)
- 新規用途展開

タフ樹脂	UVインキ
エポキシ樹脂	OA機器
アクリレート	水処理剤

- グローバルネットワークの拡充
- 新規医薬品原薬・中間体の開発

## 基礎化学品事業

### コスト競争力を強化

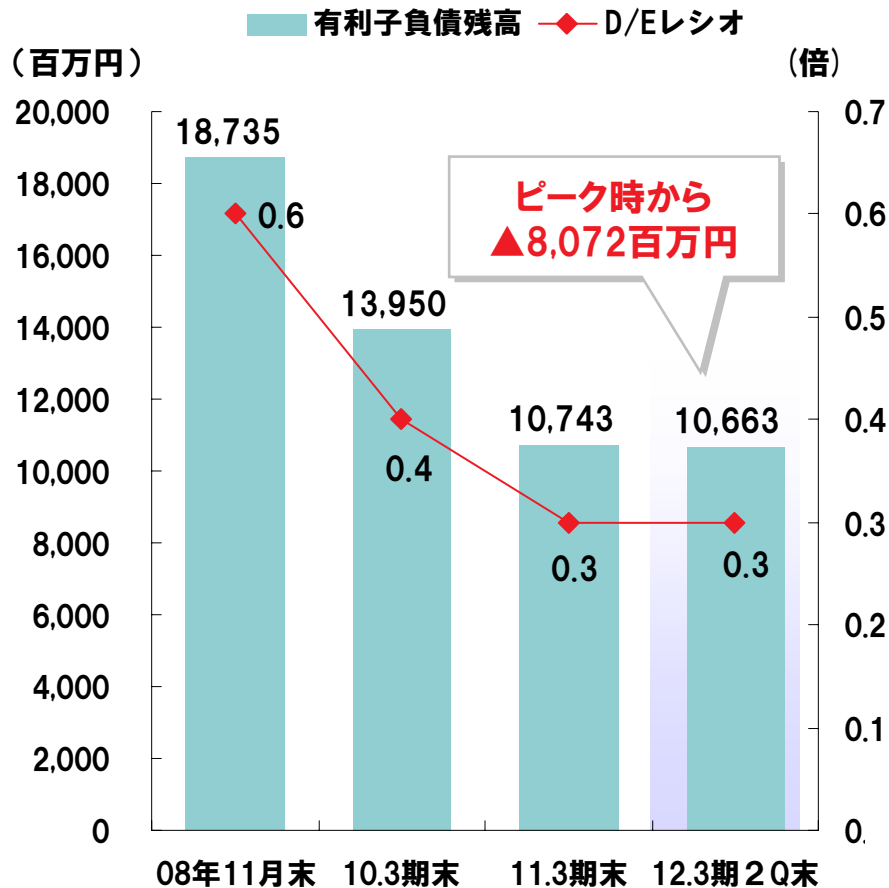
- 機能化学品事業の拡大に対応したAC・EP能力増強とコストダウン
- クロール・アルカリ製品のグローバル競争力の強化

基礎化学品、機能化学品がバランス良く強化され、不況の影響を受けにくい事業構造に

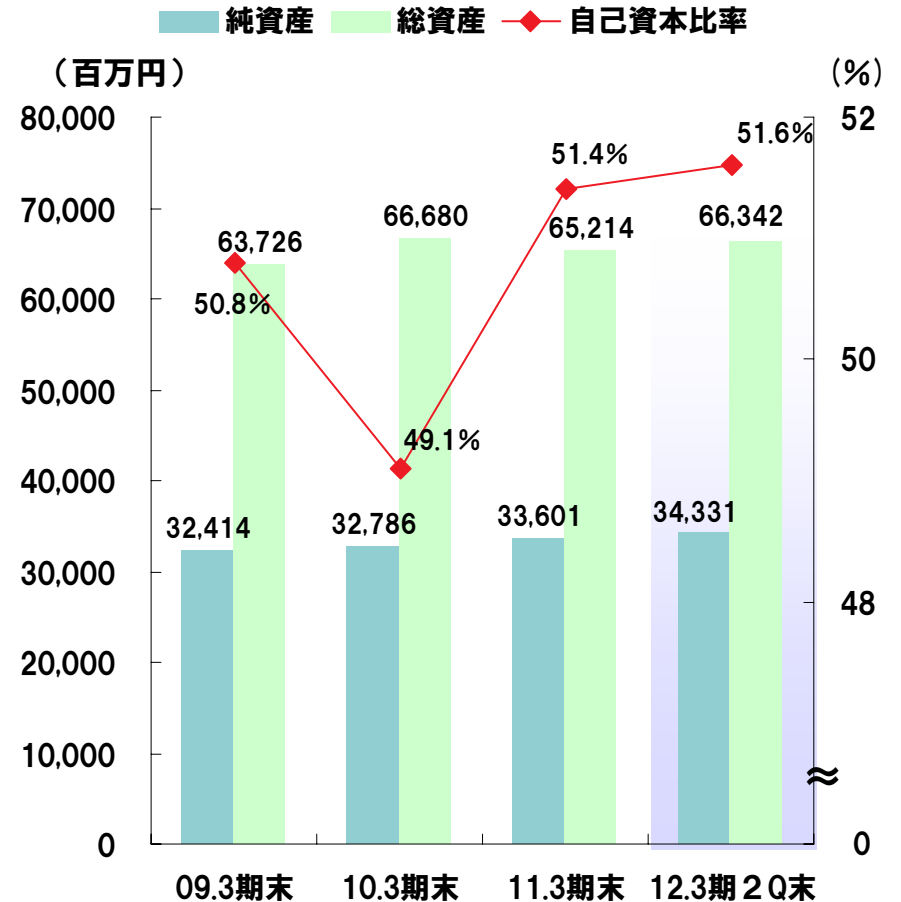
# 財務基盤

## 健全な財務体質を維持

### 有利子負債残高とD/Eレシオの推移



### 資産と自己資本比率の推移



## II. 2012.3期2Q業績



# 2012.3期2Q概況

## 原料高騰、円高の環境下で売上高および営業利益の2桁増を達成

(百万円)

	11.3期2Q	12.3期2Q	増減率	増減額	期初予想	達成率
売上高	39,041	43,642	11.8%	4,601	41,500	105.2%
営業利益	2,142	2,433	13.6%	291	2,300	105.8%
売上比 (%)	(5.5%)	(5.6%)			(5.5%)	
経常利益	2,252	2,428	7.8%	176	2,400	101.2%
当期純利益	1,278	1,371	7.2%	93	1,350	101.6%
一株利益(円)	11.8	13.0	10.2%	1.2	12.8	101.6%

	11.3期2Q	12.3期2Q
US\$/円	90円	81円
ユーロ/円	116円	115円
ナフサ(円/KL)	46,500円	57,500円

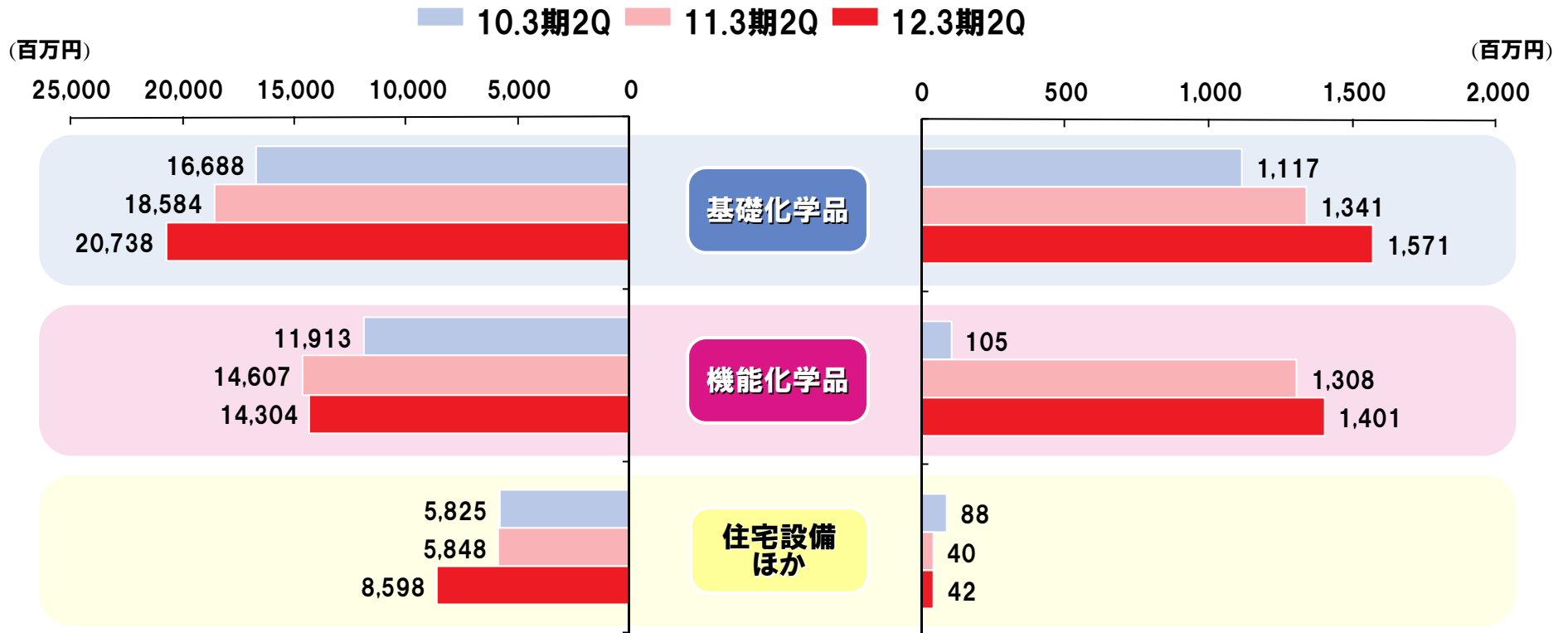


# セグメント情報

## 基礎化学品、機能化学品ともに2期連続で増益

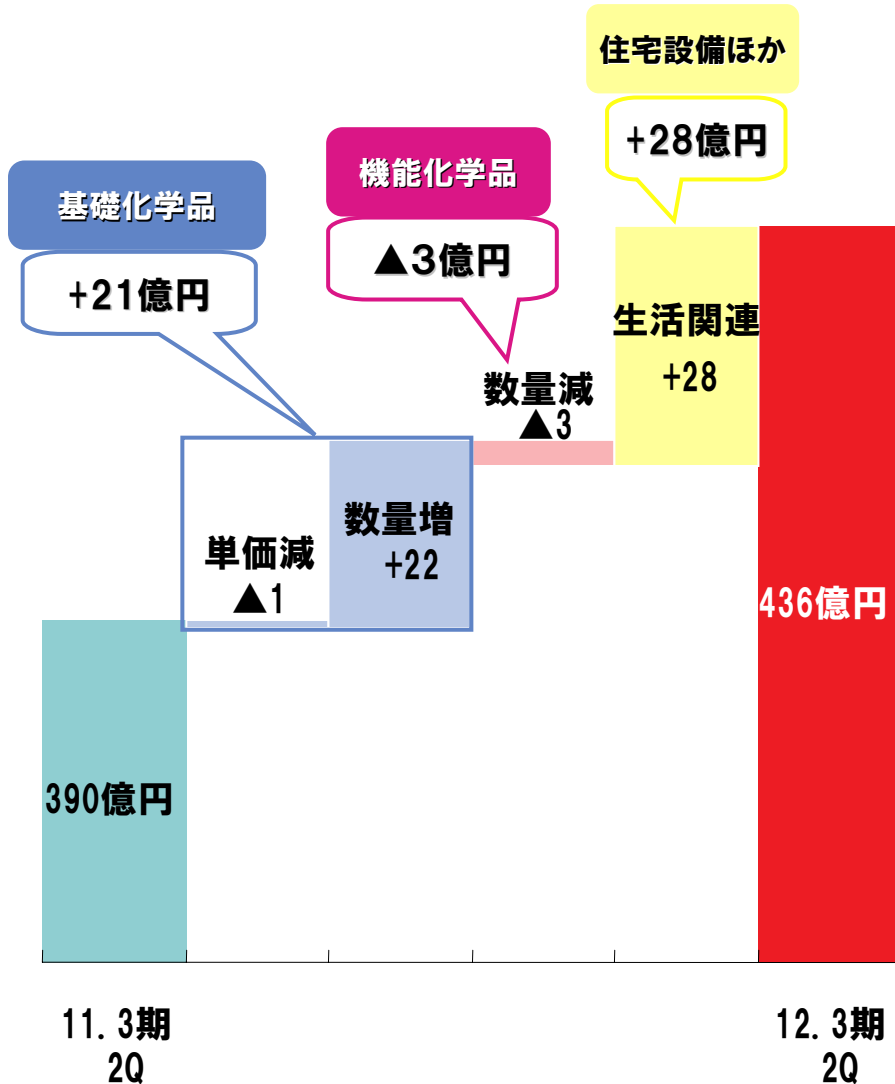
◆ セグメント別売上高

◆ セグメント別営業利益



# 売上高増減分析

## セグメント別要因分析



## 主要製品別増減分析

### 基礎化学品

**+21億円**

製品	増加額
エピクロルヒドリン	+8億円
クロール・アルカリ	+5億円
塗料原料ほか	+8億円

### 機能化学品

**▲3億円**

製品	増加額
アリルエーテル	+2億円
液体クロマトグラフィー用シリカゲル	+2億円
医薬品原薬・中間体	+1億円
電子材料ほか	▲8億円

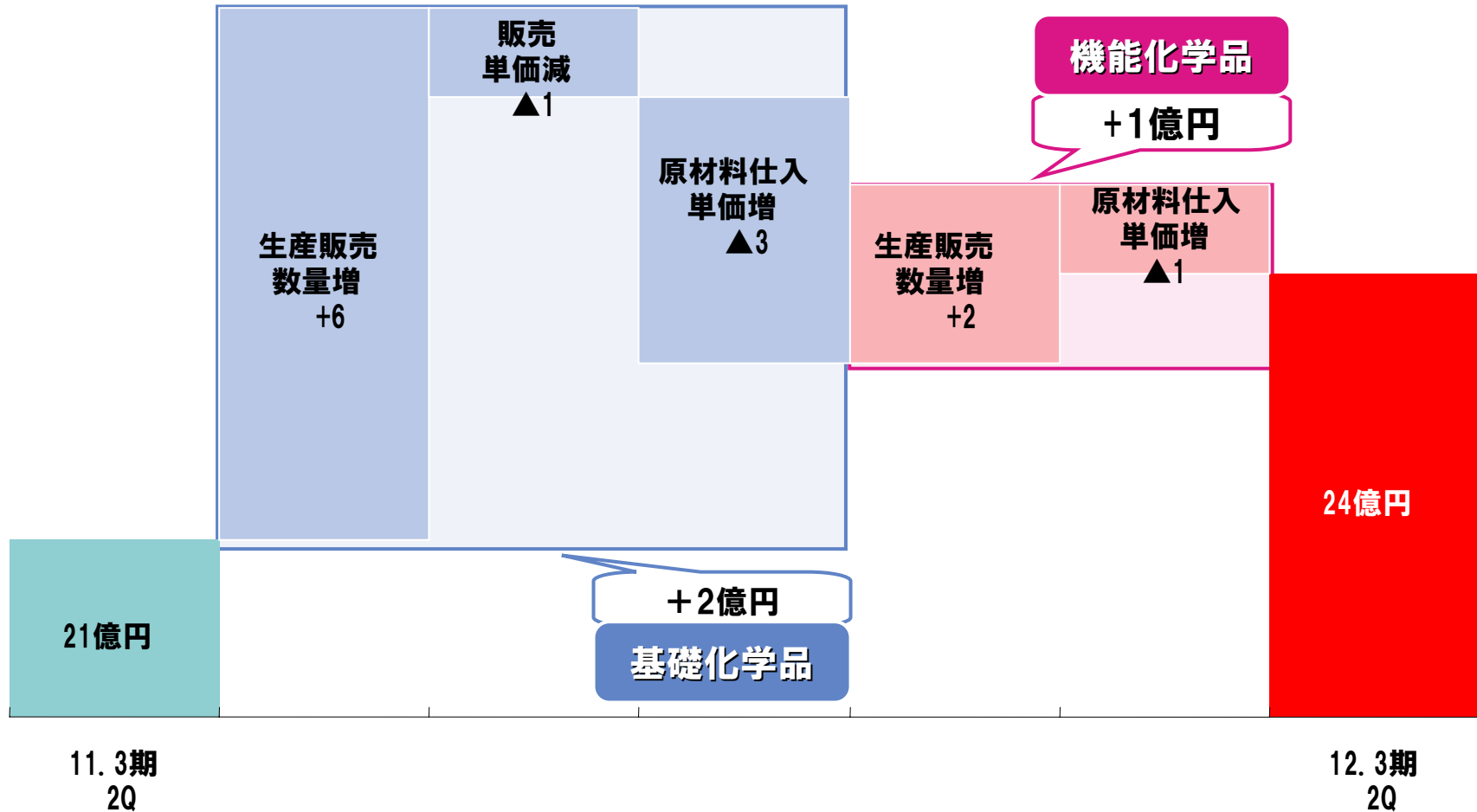
### 住宅設備ほか

**+28億円**

製品	増加額
生活関連商品	+28億円
建材	▲1億円
エンジニアリングほか	+1億円

# 営業利益分析

## 基礎化学品、機能化学品ともに生産販売数量増が寄与



## 一段と強化された財務体質で新たな成長に向けた設備投資を推進

(百万円)

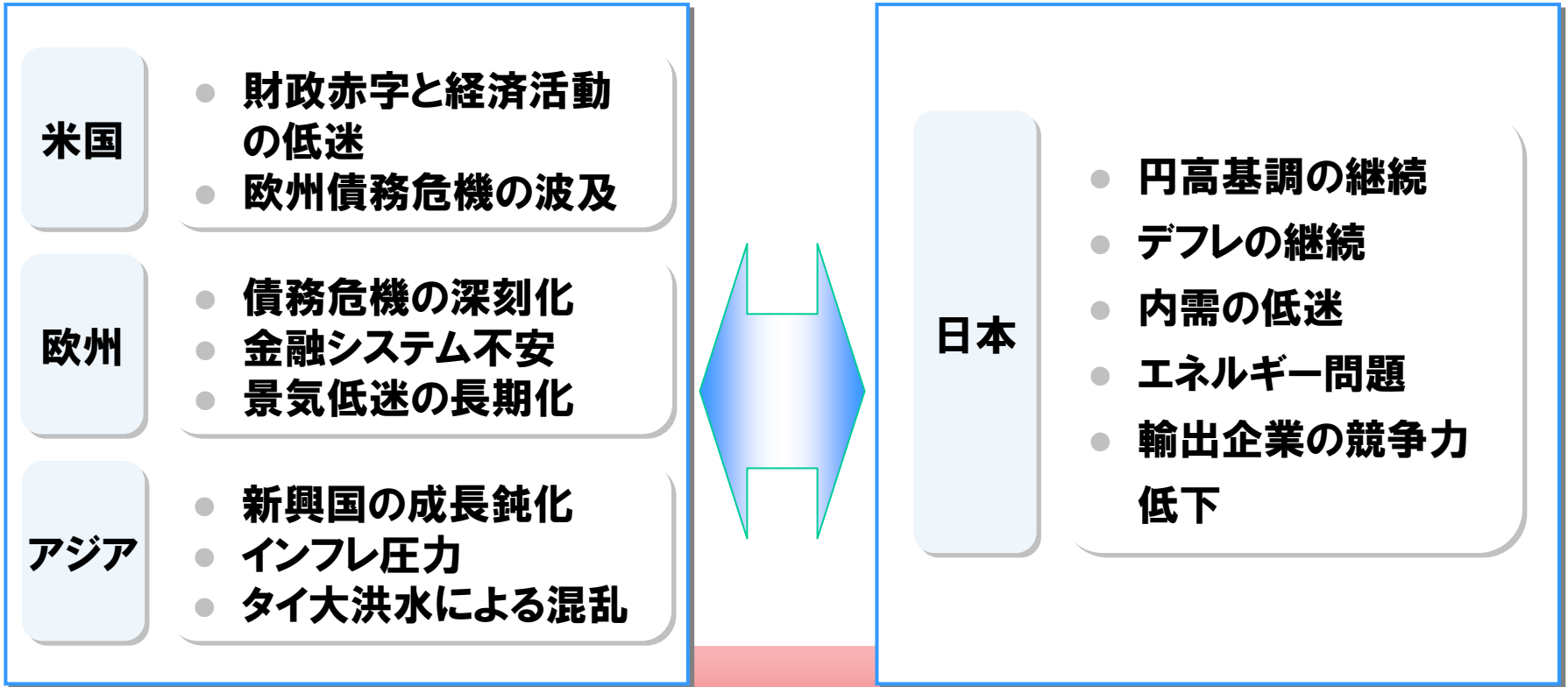
	11.3期2Q末	11.3期末	12.3期2Q末	前期末比
総資産	65,990	65,214	66,342	1,128
純資産	32,864	33,601	34,331	730
自己資本比率	49.7%	51.4%	51.6%	0.2%
有利子負債	12,890	10,743	10,663	▲80
D/Eレシオ	0.4倍	0.3倍	0.3倍	-

	11.3期2Q	11.3期	12.3期2Q	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,906	5,370	139	▲1,767
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲551	▲1,312	▲1,417	▲866
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,386	▲4,726	▲466	920
現金および現金同等物	6,425	5,764	3,913	▲2,512

## Ⅲ. 2012.3期業績予想

# 当社を取り巻く事業環境

## 今期の事業環境



当社

グローバルニッチ事業の強みを発揮し業容を拡大

# 下期からの取り組み

## 事業構造の拡大強化を推進

### 機能化学品事業の強化

2011年 8月完成	アリル エーテル	半導体、プリント基板 高級塗料	能力 1.6倍
2011年 12月完成予定	エピクロル ヒドリンゴム	自動車、OA機器	能力 1.2倍
2011年 12月完成予定	医薬品 原薬	骨粗しょう症治療薬	新設

### AC・EP製造能力の増強

2012年 11月完成	6万トン→8万トン/年へ		
設備 増強	AC・EP増強 65億円 新型電解槽導入20億円		
インフラ 整備	港湾整備 排水枠の拡張 など		

### コスト競争力の強化と生産効率の向上

2013年3月まで 変動費12億円削減  
2012年3月まで 固定費 3億円削減

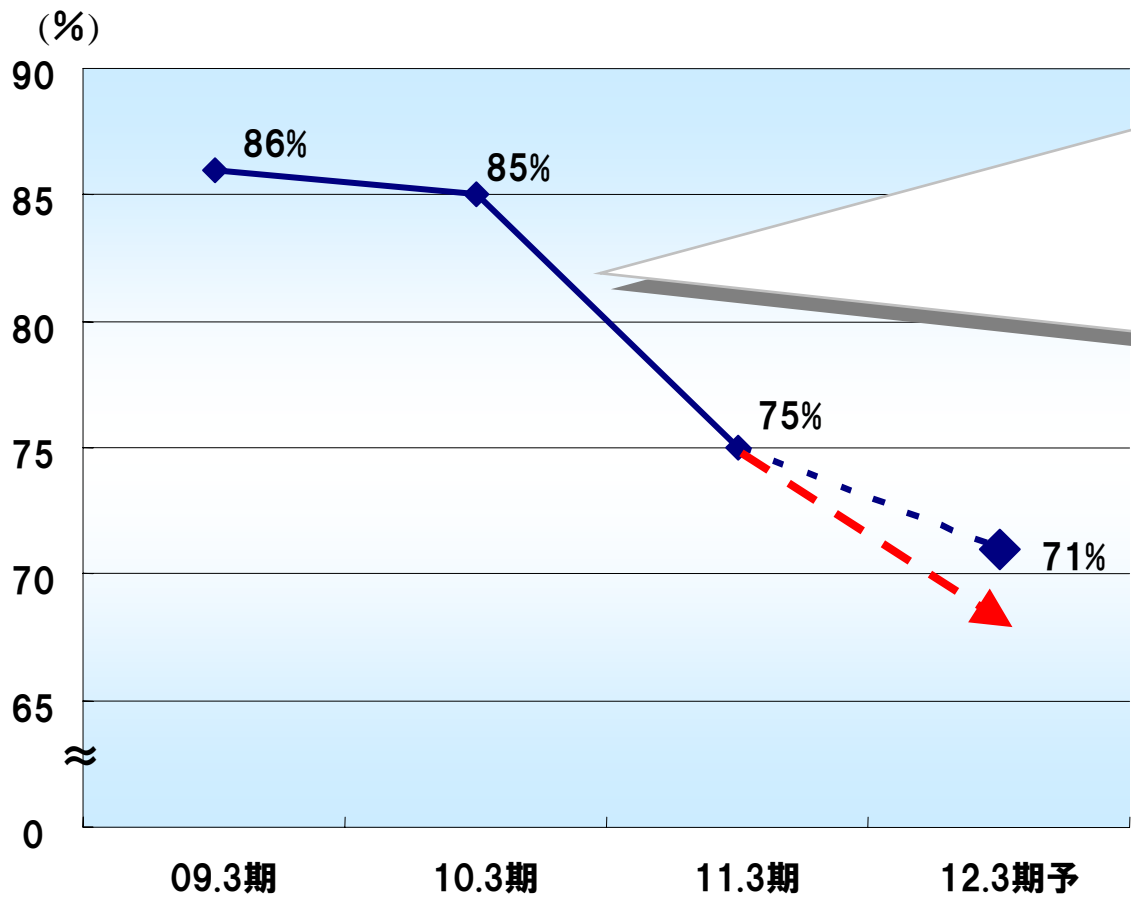
- プロセス改善および原価構成の総点検  
(省電力電解槽の導入、AC・EP反応効率向上、エピクロルヒドリンゴム重合槽の稼働率向上など)
- 物流費の削減
- 固定費の削減(間接部門の生産性向上など)

### 低収益事業の再構築

2011年 10月開始	化粧板事業の ファブレス化
2012年 3月末	静岡工場を閉鎖

# 全社コストダウンによる損益分岐点の低下

## ◆ 損益分岐点比率の推移



## ◆ 24億円の全社コストダウンの内訳

(09.3期4Q~10.3期 実施)

**固定費18億円**

- 組織の簡素化、間接部門の効率化
- 運転2交代制の導入
- 研究開発部門の生産性向上
- 補修費、消耗品費の見直し など

**変動費6億円**

- 生産コストダウン  
(AC反応収率アップなど)
- 物流コストダウン  
(WEB受注の導入など)





# 2012.3期の業績予想

## 売上高、利益とも過去最高を更新

(百万円)

	11.3期	12.3期予想	増減率	増減額	期初予想
売上高	80,757	85,000	5.3%	4,243	85,000
営業利益	4,470	5,100	14.1%	630	5,100
売上比 (%)	5.5%	6.0%	—	0.5%	6.0%
経常利益	4,618	5,300	14.8%	682	5,300
当期純利益	2,425	2,700	11.3%	275	2,700
一株利益	22.5円	25.6円	13.8%	3.1円	25.6円

	11.3期	12.3期予想	増減率	増減額	期初予想
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,370	5,500	—	130	5,500
有利子負債	10,743	10,148	—	▲595	10,048

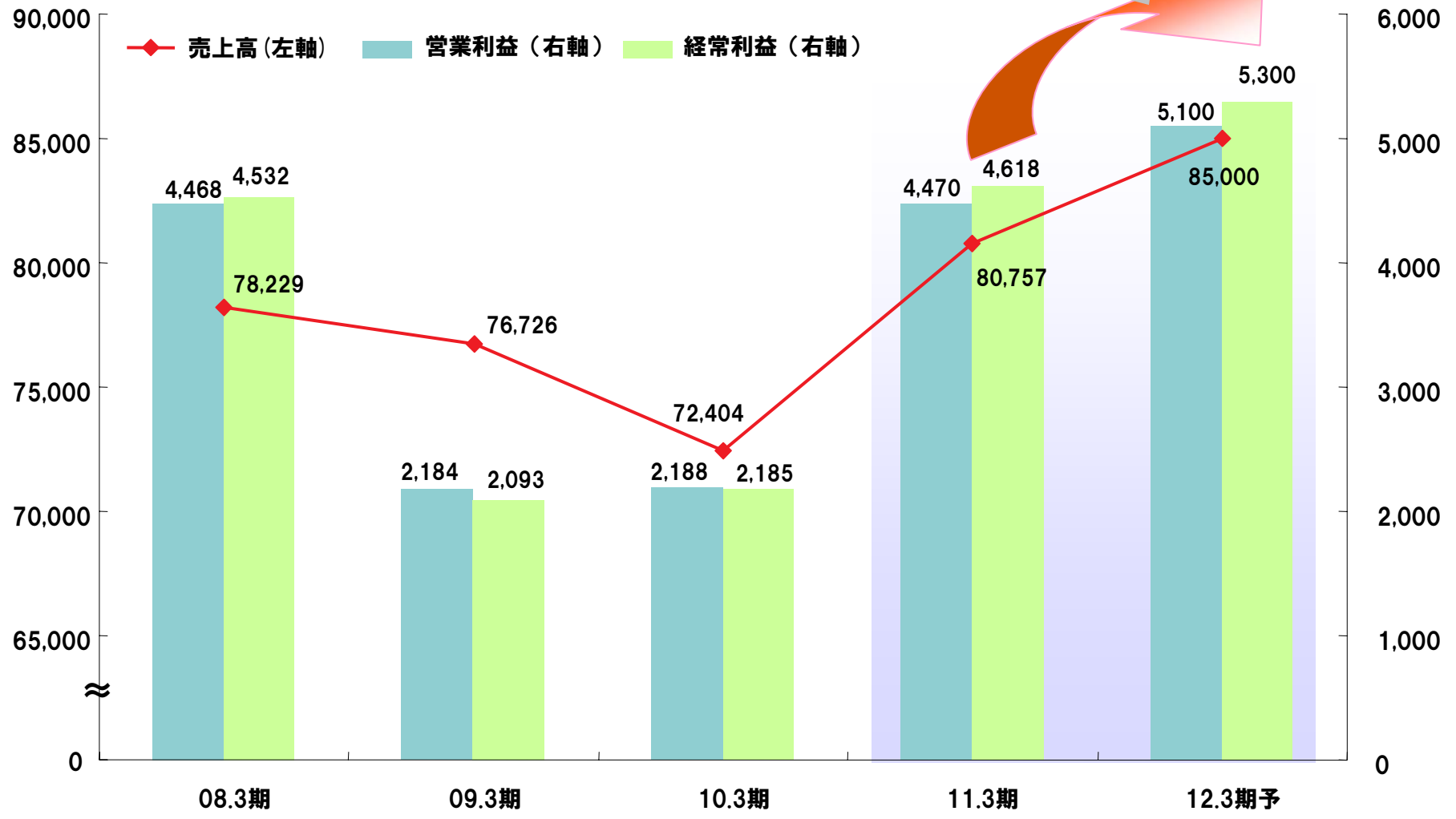
# 利益は2桁増を達成

(百万円)

(百万円)

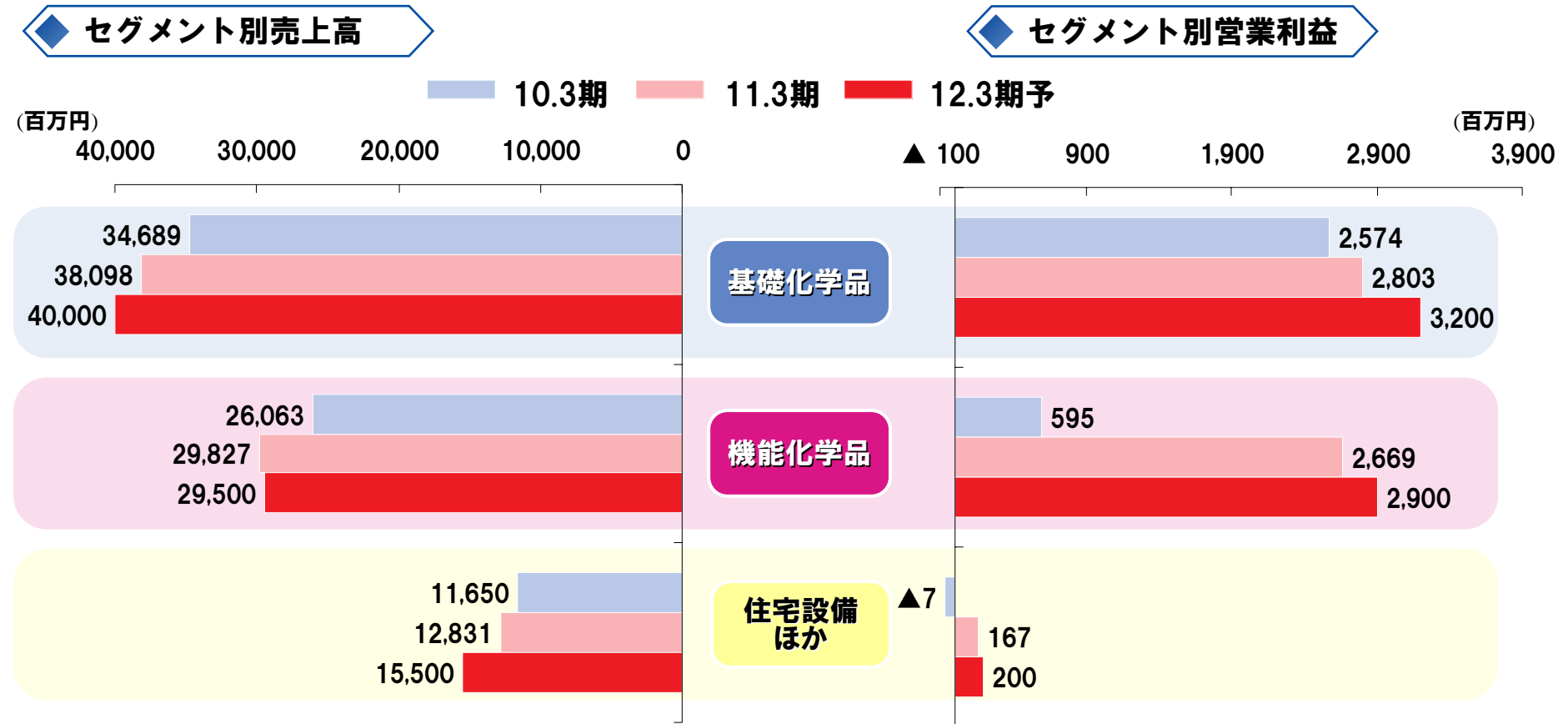
◆ 売上高 (左軸)   ■ 営業利益 (右軸)   ■ 経常利益 (右軸)

**経常利益 15%増**



# セグメント情報

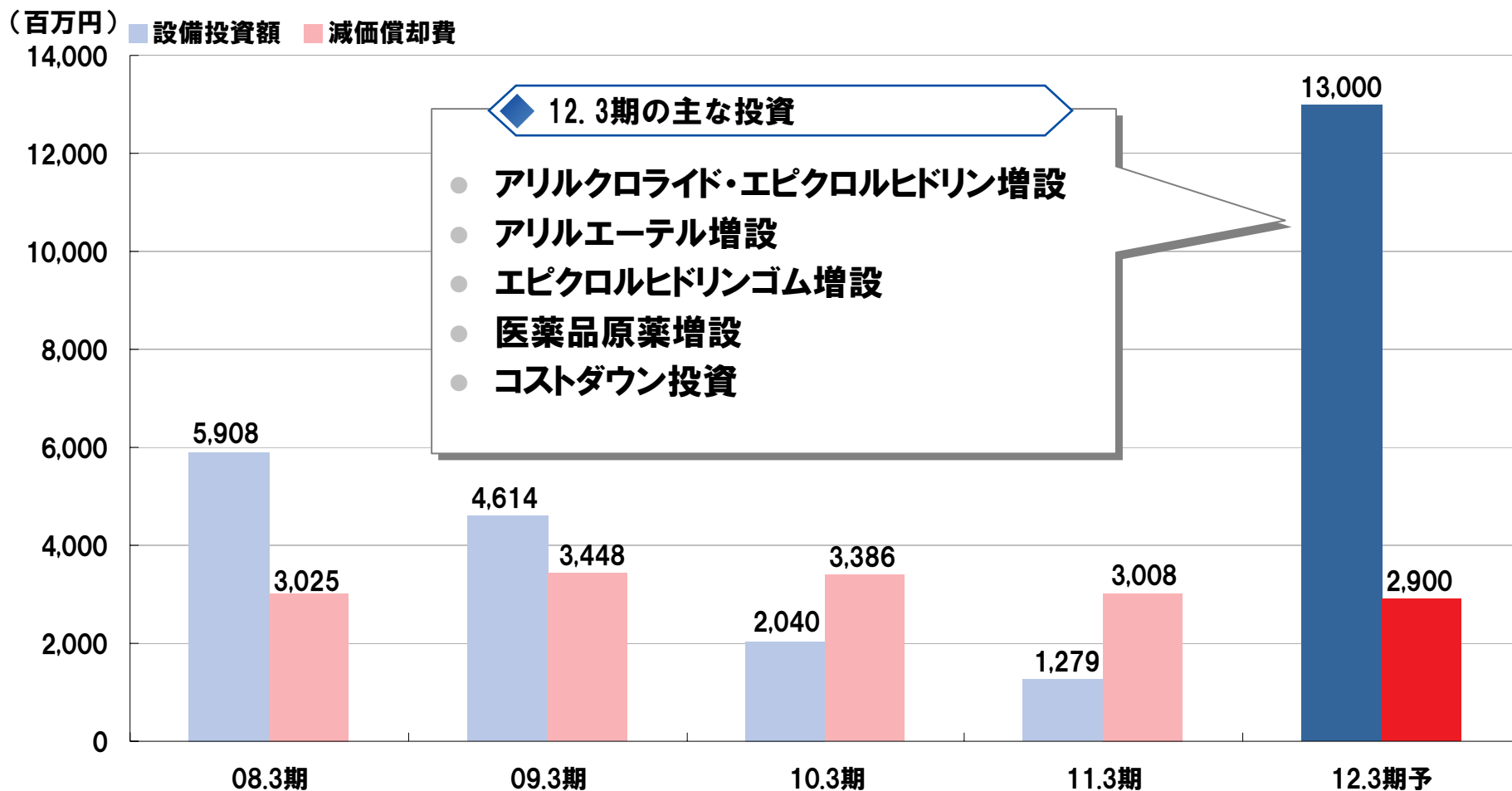
基礎化学品	増産およびコストダウンを実施
機能化学品	電子材料が低調に推移するが、高付加価値製品を拡販
住宅設備ほか	生活関連商品、エンジニアリング事業が拡大



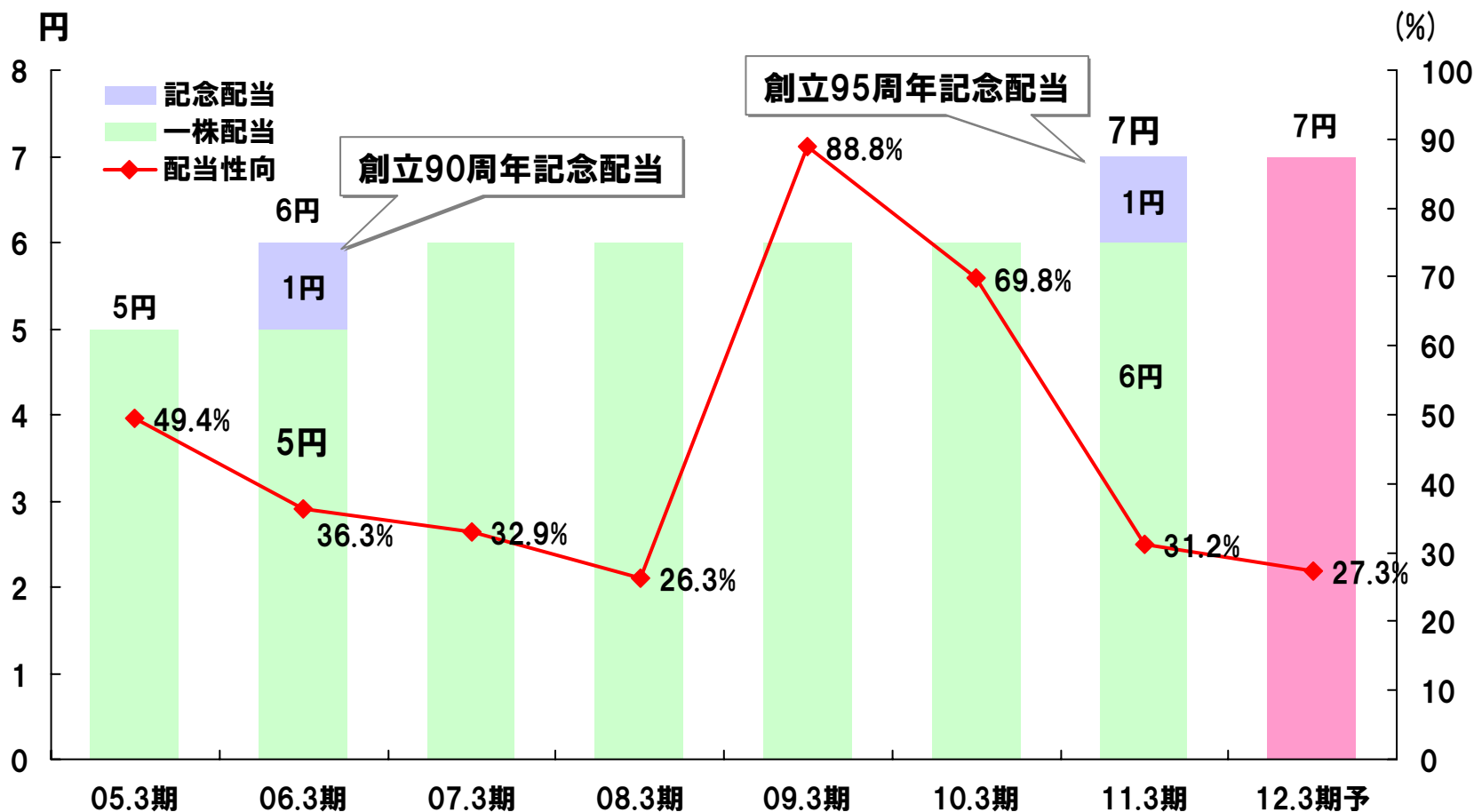
# 設備投資および減価償却

12.3期は着工ベースで約130億円の設備投資を計画

## 設備投資および減価償却費の推移



## 記念配当を普通配当に、1円増配の7円へ

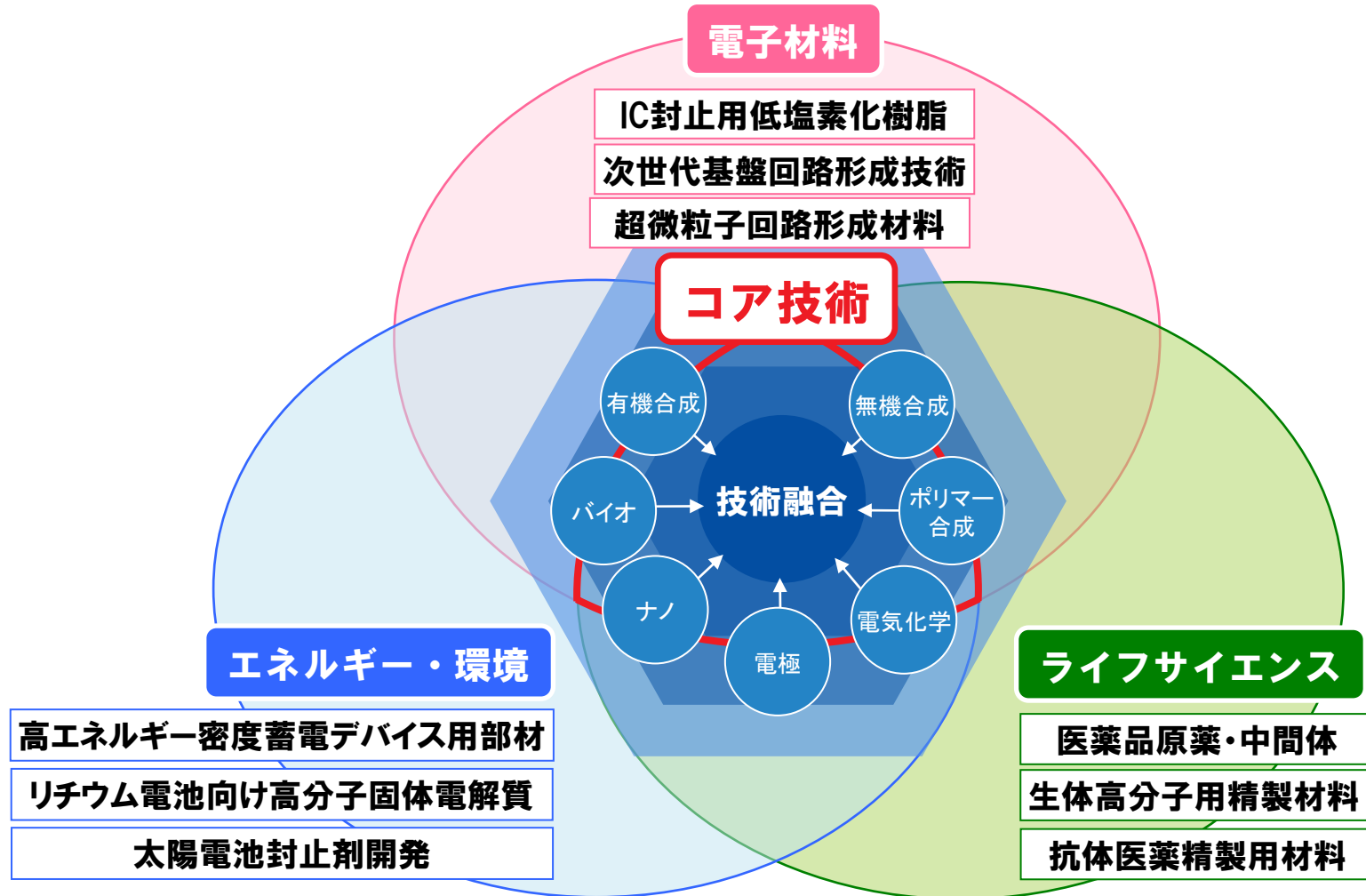


## IV. 研究開発

# 3つの成長分野に注力

## 成長ドライバーの開発と事業化

上市を優先したマーケットイン型の研究開発により、新事業創出をスピードアップ



# 電子材料：次世代回路形成技術の開発

## 1. 微細回路形成技術

### ● 光硬化性金属系印刷素材の開発

- ◆ 用途: タッチスクリーンパネル回路
- ◆ 回路形成の作業性が大幅に改善

**ユーザー評価開始(2012年度上期上市目標)**



タッチパネル回路フィルム

## 2. 超微粒子回路形成材料

### ● プリントド・エレクトロニクス分野の材料開発

- ◆ 用途: フレキシブルディスプレイデバイス
- ◆ 金属ナノ粒子を用いた回路形成技術の開発

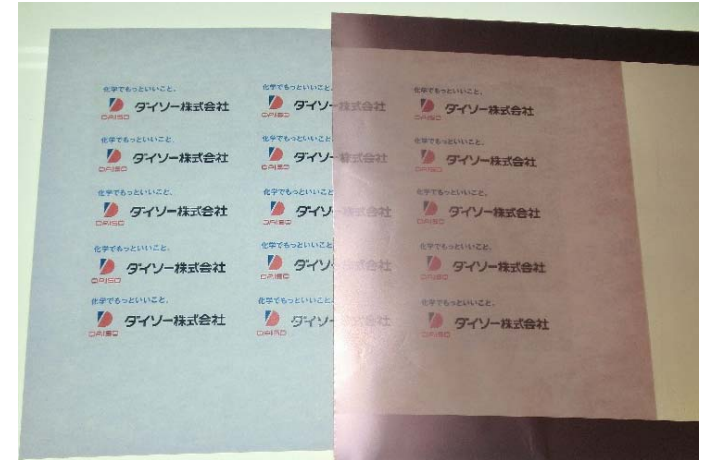


# エネルギー・環境：蓄電デバイス用部材の開発

## 1. 高エネルギー密度蓄電デバイス用部材

### ● キャパシタ用集電体の開発

- ◆ 用途：自動車、建設機械
- ◆ 微細穿孔技術による製品歩留まりの向上



微細穿孔加工された銅箔

## 2. リチウム電池向け高分子固体電解質

### ● 3タイプの素材開発

- ◆ 用途：住宅用、自動車用、産業用蓄電池およびキャパシタ  
→スマートハウス、スマートグリッドの実現に貢献
- ◆ ポリマーフィルム：安全性と生産性が向上
- ◆ ポリマーゲル：イオン導伝性が高く、加工性に富む
- ◆ バインダータイプ：結着性とイオン導伝性を両立





- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

## お問合せ先

管理本部 管理部管理グループ

TEL : 06-6110-1560